

## 予防接種

### Hib(インフルエンザ菌b型)ワクチンについて

#### Hib(インフルエンザ菌b型)とは

小児の細菌性髄膜炎を引き起こす菌の一つです。この菌による細菌性髄膜炎は他の原因菌による細菌性髄膜炎に比べ重い後遺症を残したり、時に死に至る場合があります。

#### ワクチンについて

現在WHOの推奨により全世界で120カ国以上で公費負担で接種が行われています。

昨年12月から日本でも導入されましたが現在のところ自費接種となります。(当院では1回7000円になります。)

#### 接種スケジュール・・・初回接種の月齢により接種回数が異なります。

- ▶ 2ヵ月～7ヵ月未満・・・3回+追加接種(1年後)の計4回接種
- ▶ 7ヵ月～1歳未満・・・2回+追加接種(1年後)の計3回接種
- ▶ 1歳以上・・・1回接種のみ

他の予防接種と同時接種が可能です。



全国の病院、クリニックに万遍なく販売するので割り当てが決められています。クリニックには毎月3人分を最低保証され配られます。接種希望者は仮予約後、順番をお待ちいただきます。平成21年7月25日現在247人の予約待ちを頂いております。昨年12月に初回接種を受けた方の追加接種が今年の12月から始まります。追加接種対象者のワクチンは優先確保されるため、新規に接種希望の方はさらに予約待ちが増えると考えられます。安定供給できるまでは、しばらくお待ちいただくこととなります。ご了承ください。



### 日本脳炎ワクチンについて

#### 日本脳炎とは

日本脳炎は東南アジアを中心に広く分布する病気であり、日本でも九州沖縄、中国四国中心に過去10年間で58件の発症が確認されています。症状として高熱、頭痛、嘔吐で発症し、引き続き光への過敏症、意識障害、けいれんなどを起こす重篤な病気です。

#### ワクチンについて

日本脳炎ワクチンは平成17年5月から定期予防接種の積極的な勧奨が差し控えられてきました。ADEMという病気との因果関係が否定できなかったためです。確率としては70万～200万接種に1回程です。日本脳炎に限らず数100万回に1回程度の確率で他の予防接種でも重大な副反応のため後遺症を残すことがあります。これは予防接種を受ける上で避けて通れない事実です。

新日本脳炎ワクチンはADEMを引き起こしたかもしれない旧日本脳炎ワクチンとは違う製造方法で製造されました。旧日本脳炎ワクチンはマウス脳を用いて製造するのにに対し、新日本脳炎ワクチンはアフリカミドリザル腎臓由来細胞を使用し製造しています。理論上は旧日本脳炎ワクチンよりもADEMを起こしにくくなっているようです。平成21年6月3日からできるようになりました。ただ、まだ多くの小児に対して接種されていないことから他の副反応も含め経過を見ながら接種しています。

#### ワクチン接種の実際

新日本脳炎ワクチンは第2期(9歳以上13歳未満)における有効性及び安全性が確認できていないとされています。当初は1期…初回接種2回(標準3歳)、追加接種1回(標準4歳)を対象とした接種になります。現在、すでに1期接種の済んでいるお子様は2期も旧日本脳炎ワクチンを接種していただくこととなります。新・旧ともに定期予防接種の積極的な勧奨からはずれていますので、接種に際しては同意書にサインしていただくこととなります。ご了承ください。